



学校だより 7月

令和8年6月30日

豊島区立南池袋小学校

統括校長 佐藤洋士

学校の教育目標

共に生き 共に輝こう

感動

かん

どう

副校長 中野陽太郎

「自分の子供に、自分の仕事をすすめますか？」と問われた時、親として社会の先輩として、皆さんだったらどのように答えますか。

校長先生とは、仕事の相談から他愛のない雑談まで様々な話をしています。先の問いはそんな中で出されたものです。その時の私の答えは「はい」でした。仕事ですから大変なこともあります。季節と成長を感じられるところが特にいいなと思っています。佐藤校長に問い返すと、「この仕事には『感動』がある。こんな仕事は他にない。」という答えが返ってきました。

20年ほど前のこと。当時勤めていた小学校でサッカー大会に参加するために、男女それぞれメンバーを集めチームを立ち上げることにになりました。男子は経験者中心、女子は全員初心者。大会での勝利を目指して、練習を重ねました。そして迎えた本番当日の朝。女子チームのメンバーの一人が、高熱で欠場することになりました。「〇〇ちゃんのみで、がんばるからね！」そうして臨んだ大会本番。男子は優勝、女子は予選リーグ敗退という結果となりました。しかし、どちらも忘れられない『感動』がありました。圧倒的な強さで優勝を決めた男子チーム。大量失点しながらも、最後に1点を返した女子チーム。お互いを自分のことのように喜び合い歓喜する姿がそこにはありました。練習を教えに行ったり、お互いの試合を応援し合ったりするだけでなく、意見が対立や悔しい思いをすることもありました。音楽を聞いたり映画を観たりして得られる感動とは一味違う『感動』を、共に味わうことができました。

大会後にもらった手紙に、こんな一文がありました。「私達は何かを失うことでも、強くなれる」大事な仲間が欠場し、試合結果も惨敗。しかし本番の結果だけでなく、練習の時間や試合に向かう過程で学んだことがあったのだそうです。うまくいくことだけでなく、思うようにいかないこともある。しかし、それをどう乗り越えていくかが大切だということです。それがあった「から」うまくいかなかったのではなく、それがあった「のに」がんばれた。そうやって矢印を自分に向けて、前に進むことが大切なのだと、子供達から教わりました。

「共に生き、共に輝こう」

学校で生活する上では、思うように行くことだけでなく、つまずいたり壁にぶつかったりすることもあるでしょう。しかし、お子様の成長にとって少しでも良い方向に向かえるように、学校と保護者、そして地域の協働が不可欠だと考えています。翌年、試合に出られなかった子は中心選手となって、大会に再出場しました。彼女の中では、流した涙が未来へ立ち向かう勇気になったのでしょうか。学校が『感動』の場であるために、教職員一同心を込めて務めて参ります。ぜひ、共に『感動』を味わいましょう。

※ お子様のことで気になることがあれば、いつでも学校にご相談ください。また、学校の様子はいつでもご覧いただけますので、希望の来校日時があれば、担任にお知らせください。



◇ 今月の生活目標 学校のきまりや約束を守ろう。

◇ 今月の安全目標 校庭や体育館で安全に過ごそう。